



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

統合失調症

統合失調症は、考えや気持ちが多まりにくくなってしまふ病気で、原因は脳の機能の変化にあると考えられています。ただはつきりとはわかっていません。主な症状は、「聞こえるはずのない声が聞こえるなど、実際にはないものが感覚として感じられる」「現実にはあり得ないことを信じ込む」「誰かに支配されていると思込む」「などの陽性症状、「意欲や気力が低下する」「感情が乏しくなる」などの陰性症状などがあります。

統合失調症の治療には抗精神病薬が用いられます。抗精神病薬は大きく分けて、定型抗精神病薬と非定型抗精神病薬とがあります。

定型抗精神病薬は、主に神経伝達物質（神経細胞同士が情報交換するときに必要な物質）の一種であるドーパミンの作用を妨げることで陽性症状を改善します。しかし、運動機能

に関係する部分や性ホルモンに関係する部分のドーパミンの作用も妨げてしまうため、手足が震えるなどの錐体外路症状という運動機能障害や乳汁分泌、月経異常、性功能障害などの副作用が現れることがあります。また、陰性症状は逆に悪化させてしまうこともあります。

非定型抗精神病薬は、ドーパミンのほかセロトニンなどの神経伝達物質にも作用し、陽性症状だけでなく、陰性症状にも効果が得られることがあります。陽性症状に対する作用は定型抗精神病薬と同等で、運動機能や性ホルモンに関係する部分への作用が少し弱いため、少量では錐体外路症状などの副作用が少ないといわれています。服用する量が増えると副作用の発現も増えていき、定型抗精神病薬と変わらない頻度になってしまう。それ以外の副作用は体重が増加したり、血糖値が上昇することもあります。

抗精神病薬以外の薬はそれぞれの

症状に合わせて、抗うつ薬や抗不安薬、睡眠導入剤などが使われたりします。また、抗精神病薬による手の震えなどの副作用を抑える目的で抗パーキンソン薬が使われることもあります。

薬物療法は症状の改善を目的におこなわれますが、家庭生活や社会生活の障害を回復する目的でリハビリテーションもあわせておこなわれます。リハビリテーションには、心理教育や生活技能訓練、作業療法などがあり、症状や生活の状況に合わせておこなわれます。

統合失調症は、治療を中断することで病気が悪化する可能性もあります。また、再発しやすい病気だともいわれています。治療が長期にわたることもありますが、症状が良くなっても自己判断で治療を中断することなく、治療の終了に向けて主治医とよく相談してください。

（北区）薬局エビラファーマシー

松本博志